

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

広島アルミニウム工業株式会社 新郷工場

(2) 事業所の所在地

広島県山県郡北広島町新郷1-4

(3) 業種

アルミニウム・同合金ダイカスト製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和元年度を基準年度とし、令和3年度から令和8年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

環境理念

当社は、社会の責任ある一員として、企業活動を通じ、人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与します。

行動指針

1. 私たちは、リサイクル・省資源・省エネルギーに積極的に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
2. 私たちは、日々の活動において発生する廃棄物の最小化と汚染の予防に努めます。
3. 私たちは、環境関連の法律・規則および関連する協定等について責任を持って遵守します。
4. 私たちは、環境マネジメントシステムを構築し、積極的な環境管理活動を通じ、環境保全の継続的改善を図ります。
5. 私たちは、この『環境方針』を周知すると共に、環境教育・広報活動を通じ、地球環境問題に関する意識向上に努めます。
6. 私たちは、この『環境方針』を遂行するために、環境目的及び目標を設定し、年度毎に見直します。
7. 私たちは、この『環境方針』を一般に開示し、地域社会との共生を図ります。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 (元) 年度	令和 (2) 年度
二酸化炭素	25,860	22,021

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 内製高(百万円)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 (元) 年度)		原単位 削減目標 削減率 (d)	目標年度 (令和 (8) 年度)			
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)		原単位 (c)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	25,860	5,237	4.94	5.5	36,300	7,776	4.67
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量	25,860	5,237	4.94	5.5	36,300	7,776	4.67
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	4.94	5.5	-	-	4.67
目標設定の考え方	令和元年度 原単位11%削減目標を継続						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	重油使用量の削減	重油使用量を2026年までに 2019年比 原単位5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・溶解炉断熱向上, 効率向上 ・可動率の向上 ・不良低減
2	LPG使用量の削減	LPG使用量を2026年までに 2019年比 原単位5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・可動率向上・不良低減 ・分割型の展開 ・中子造型係不良対策
3	電気使用量の削減	電気使用量を2026年までに 2019年比 原単位5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルコンダクトの開閉して、廃熱を取込み工場内の温度をUPする ・天井付近の滞留熱を、換気扇を付けて工場内温度を下げる ・井戸水で室外機を冷やして、エアコン冷却効率のUPをする ・インバーターによるポンプの流量調整

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

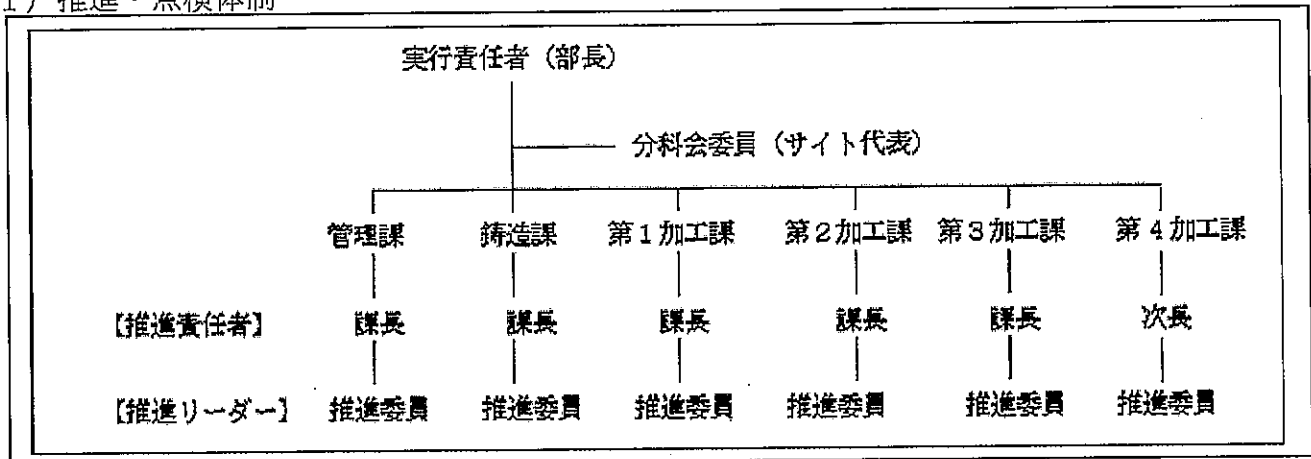
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	産業廃棄物排出量の削減	廃液を2026年末までに2019年比 5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・空ドラム缶リサイクル
2	紙購入量の削減	紙を2026年末までに2019年比 5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・文書電子化による、紙削減
3	切削油使用量の削減	2026年末までに2019年比 5.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・クーラント低減 ・飛散対策 ・不良削減による、クーラント使用量削減

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

分科会委員(サイト代表)が中心となって毎月各課の環境マネジメントプログラムの取組み状況を把握し、必要に応じて環境連絡会議を招集し問題点の検討、具体的活動の指示、計画の定期的な見直しを実施する。また、3ヶ月に一度の周期で全社的に取組み状況を把握し、部門間での温度差をなくすことで継続的な向上を図る

(3) 計画書等の公表

事業所への備え付けによる閲覧